第７回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和７年５月 12 日（月）
17 時 30 分～19 時
会場：千曲市役所 301 会議室

次 第

1 開　会

2 長野県教育委員会挨拶

3 新規構成員・事務局自己紹介

4　報告事項
　４月７日　千曲市署名簿提出についての報告

5 会議事項
（１）「第６回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ」について
（２）学びのイメージの検討
　ア　学びのイメージ策定のスケジュール
　イ　新校の生徒像・学校像
　ウ　DX に係る学科・学び
（３）校地検討の進め方について

6 その他
　次回の予定
　【期日】　令和７年７月または８月（予定）
　【場所】　千曲市役所（予定）

7 閉　会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第１　県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第 138 条の４第３項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第２　懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

（１）学校像、教育方針等に関すること

（２）校地・施設・設備等に関すること

（３）管理運営等に関すること

（４）教育内容等に関すること

（５）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第３　懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、ＰＴＡ、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

２　会議に座長を置く。

（開催期間）

第４　会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和２年 10 月 26 日から施行する。

第７回長野千曲総合技術新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	座長◎ 新規○	氏名	所属等	役職等
1	自治体		西澤　雅樹	長野市	副市長
2			丸山　陽一	長野市	教育長
3			小川　修一	千曲市	市長
4			小松　信美	千曲市	教育長
5			塚田　常昭	坂城町	教育長
6	産業界		市川　伸一	ＪＡグリーン長野総合企画部企画広報課	課長
7			福田　享士	株式会社システックス	常務取締役
8			矢島　隆生	フレックスジャパン株式会社	代表取締役社長
9			滝沢　秀治	滝沢食品株式会社	代表取締役社長
10	学識経験者		森下　　孟	信州大学学術研究院教育系	准教授
11		◎	藤本　光世	元県立高等学校長	座長
12	地域		坪井　俊文	長野地域振興局	局長
13			海野　忠一	長野市（篠ノ井地区）	
14			香山　篤美	長野市（松代地区）	
15			赤地　憲一	千曲市	
16	同窓会		越　　正至	更級農業高校同窓会	会長
17			細川　隆男	松代高校同窓会	会長
18			赤塩　曜子	屋代南高校同窓会	会長
19	ＰＴＡ	○	山田　哲章	更級農業高校ＰＴＡ	会長
20			宮澤　洋介	松代高校ＰＴＡ	会長
21		○	青木　健司	屋代南高校ＰＴＡ	会長
22			吉澤多恵子	長野市ＰＴＡ連合会	副会長
23		○	宮原　純平	更埴ＰＴＡ連合会	顧問
24	小中学校等関係者		宮尾　昭広	長野上水内校長会 広徳中学校	校長
25		○	宮坂　博喜	更埴校長会 屋代小学校	校長
26			倉島さつき	稲荷山養護学校	校長
27	再編対象校		櫻井　大河	更級農業高校	農業クラブ会長
28			武藤　　穣	更級農業高校	校長
29			徳武　　晃	更級農業高校	教諭
30			岡澤　愛実	松代高校	生徒会長
31		○	阿部　栄智	松代高校	校長
32		○	中澤　涼子	松代高校	教諭
33			渋沢　葉奈	屋代南高校	ライフデザイン科代表
34			竹内　宏枝	屋代南高校	校長
35		○	星野　裕之	屋代南高校	教諭

【事務局】

学校名	氏名		
更級農業高校	丸山　暢之（教頭）	徳武　　晃	○ 北澤　　晃
松代高校	○ 山口　雅子（教頭）	中澤　涼子	坂本　成久
屋代南高校	櫻田　智也（教頭）	星野　裕之	土屋友紀子

県教育委員会	高校教育課 高校再編推進室	
	○ 原　多恵子	主幹指導主事
	○ 原　周一郎	主任指導主事
	宮嶋　直美	主任指導主事
	○ 米澤　和真	主事
	学びの改革支援課　高校教育指導係	
	○ 井上　和之	指導主事

第6回　長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日　時	令和７年１月 27 日（月）17 時 00 分～18 時 30 分					
場　所	篠ノ井総合交流センター　多目的ホール					
出　席 **（敬称略** **◎座長）**	西澤　雅樹 ◎藤本　光世 細川　隆男 宮尾　昭広 宮林　正樹	丸山　陽一 坪井　俊文 赤塩　曜子 櫻井　大河 渋沢　葉奈	小川　修一 海野　忠一 小田切　勇 武藤　　穣 竹内　宏枝	小松　信美 香山　篤美 宮澤　洋介 徳武　　晃 肥田　尚音	福田　享士 赤地　憲一 山﨑みさ子 岡澤　愛実	滝沢　秀治 越　　正至 吉澤多恵子 向井健太郎 （以上 28 名）
欠　席 **（敬称略）**	塚田　常昭 森下　　孟 倉島さつき	市川　伸一 唐木　文子	矢島　隆生 中野　禎仁 （以上７名）	**傍聴者**	13 名（オンライン３名含む） 報道関係７社	
事務局	更級農業高校	丸山教頭	徳武教諭	石澤教諭		
	松代高校	阿部教頭	宮林教諭	坂本教諭		
	屋代南高校	櫻田教頭	肥田教諭	土屋教諭		
当日資料	第６回懇話会資料、ワークシート					

会議事項

（１）第５回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
（２）新校の生徒像・学校像について（グループワーク）

主な内容（意見･質問等）（⇒回答）

※会議に先立ち、懇話会の進め方について質疑、要望
・高校再編が 2030 年以降になってしまうと、様々な状況が大きく変わってしまう。そうなったときに今、示されている再編計画がそのまますんなりいくのか、この計画のままでよいのか再考してもらいたい。
・再編計画に異論のある署名活動が行われており、懇話会に参加されている皆さんが一枚岩になれないのではないか。地域の合意形成があれば、本懇話会の構成員もその地域を代表して意見を言っていきたいと思えるのではないか。
⇒事務局
・新校再編統合についての議会同意を得た後、施設整備では設計に３年から４年、建築工事に５年から７年が必要であり、議会同意後から新校開校まで 10 年ぐらいかかってしまうことがわかったことから、2030 年までに開校できない学校が出てきた状況である。状況の変化に応じた新しい学校をつくることが２期再編の目的であり、そういった環境をつくっていかなければならないと考えている。
・懇話会の皆さんが一枚岩になっていただくということはそのとおりである。懇話会での意見交換を事務局で整理し、皆さんに共有していくように進めていく予定である。
⇒藤本座長
・懇話会の意見をまとめていくということでは、旧第４通学区にとって、どんな魅力のある高校、どういった総合技術高校がつくれるのかといったことを積み上げ、一枚岩になるようにとの願いを持って進めていく。
・魅力ある高校づくりについて焦点をあて、他地区からも生徒が集まる高校ができるようにと考えている。

（１）第５回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（承認）
（質疑）
・記載されている「アントレプレナーシップ教育(P2, 7)」について教えてほしい。
⇒アントレプレナーシップは、起業家精神と訳されるものであり、課題解決に向けた学びを行っていくものである。
・「ラーニングコモンズ(P7)」について教えてほしい。また、先行している総合技術高校の中でこのようなことを行っているのか。
⇒ラーニングコモンズは、多くの大学等で整備されており、探究学習等で取り組んでいるような未知の時代を生き抜くための主体的な学びやコミュニケーション能力を身につけるための協働的な学びを行う環境を整えたものである。今後、地域にご支援いただくようなシステムの構築などを懇話会の中でも意見交換していただく予定である。

（２）新校の生徒像・学校像について（グループワーク）
【Ａグループ】
〇前回のグループワークへの感想等
・県教委の方からもう少し具体的な内容を出してもらえると意見が出るのではないか。
・抽象的なものばかりなので、具体的に農商家について掘り下げ、どんな学科ができるのかということを事務局から示してもらうと意見が出やすいのではないか。
〇育てたい生徒像
・コミュニケーション能力を備えた生徒を育てたい。生徒が企業訪問し、実際に取材などを行っていくことでコミュニケーション能力が更に育っていくのではないか。

○目指す学校像
・他県ではレストラン経営など、新しい考え方や環境が営まれている。教員だけではなく、いろいろな方のご意見を聞きながら、そのようなことを実際にできる学校をつくれば魅力的である。
・それぞれの学校は、最初は農業から始まっている。その形を受け継ぎながら、その時々に応じて新たな学校をつくってきたという歴史を大切にして、新しい学校を考えていきたい。
・それぞれの学校ができた背景や歴史があるので、新しい学校づくりにそうしたものを受け継いでいきたい。
・この地区にはインターチェンジがあり、流通の拠点である。そうしたものを生かしながら、新たな学校づくりを考えていきたい。

【Ｂグループ】
○前回のグループワークへの感想等
・地域の産業と学校の結びつきが大切である。地域にあるものを生かして産業に結びつけていくにはどうしたらいいのか考えていきたい。
○目指す学校像
・屋代南高校でのセイコーエプソン株式会社富士見事業所ソリューションセンターの企業見学や松代高校での商品開発での地域との繋がり、更級農業高校での地元農家からの依頼による小森茄子の生産維持・向上を図る活動など、現在３校で取り組んでいる外部との連携を新校の中でどれだけ入れられるのかが大事である。
・生徒からいろいろな疑問やアイディアが出てくるが、解決する手立てが学校の中だけでは出てこない。企業をはじめ外部の方に橋渡しをしていくことが必要である。
・日常生活の困りごとを拾い上げて解決するようなプロジェクトは、企業にとっても、学校にとっても魅力的なものが多いのではないか。そういった連携ができる学校を目指していきたい。

【Ｃグループ】
○育てたい生徒像
・いずれこの地域に戻ってきて、自分から幸せを追究し志を高く学び続けられる生徒を育てたい。
・目指す力としては、コミュニケーション能力、非認知能力、自己肯定感、自己実現ができる力、そして、意欲と探究である。
○目指す学校像
・総合技術高校を目指す以上はトップを目指す。
・それぞれの専門科の強みを生かし、学びを継続し、その学びをコラボしていく。それを発展させ、専門的な学びに繋げていくような取組ができればよいのではないか。
・積極的に幸せを自ら求め、学べるようなシステムが考えられないか。
・商業の良さを農業に、農業の良さを家庭科にというように連携ができないのか。それぞれの学びをプラスに変えていくことはできないか。
・各科を繋ぐためのツールとしてデジタル技術は必須であり、情報科の設置も必要ではないか。

【Ｄグループ】
○育てたい生徒像
・地域貢献に軸を置きながら、地元の企業や農家などと連携した校外での学びの機会を設けることで職業人の育成に繋がるのではないか。
・新校での学びが社会生活でどのように役に立つのか実感できることが求められる。
・様々な体験活動によって、人間の価値観や困難に立ち向かう力の醸成に繋がるのではないか。実習で困難を乗り越えたといった経験が、いつかどこかで繋がっていくのではないか。
・ライフデザイン科生徒が考案したデザインが海外で人気になる（バズる）ということがあった。そういったアイディアなどを海外に発信できる機会があればよいのではないか。
○目指す学校像
・コンクールができるほどのキッチン設備など、充実したインフラ整備ができれば、区域外からも生徒が集まるのではないか。生徒の学ぶ意欲の向上にも繋がるのではないか。
・農業科で栽培し、商業でマーケティングのノウハウを持ち寄り、ライブデザイン科で調理したり、廃棄されるものを活用したりするような、小さな「道の駅」といったビジネスモデルを構築する。

【Ｅグループ】
○前回のグループワークの感想等
・構成員が考えたグループワークの内容について、生徒が実際にどのように考えているかをすり合わせしながら、事務局で提案する形で段階的に進めていくようなワークショップを考えてもらいたい。
・地域全体で学校を考えてほしい。長野市、千曲市について全体的な立場で意見を出してもらえればありがたい。
○育てたい生徒像
・主体的に活動、探究ができ、表現力、判断力のある生徒を育てる。
・生徒会の活動や学校行事、文化祭など、もっと生徒の考えを取り入れた活動ができるようにしたい。
・コーディネーターが必要であり、外部の方も含めて応援してくれる人が周りにいることが大事。
○目指す学校像
・自分に自信を持って取り組むことができる仕組みがある学校にしたい。
・３校の特徴や地域と連携し、学びたいところに行って学ぶオープンスペースであること、最先端の技術が学

べるということが大事。また、IT 系の先端な技術を学べるとよい。
・地域振興という意味では、農業、工業、観光業に特徴がある地域であり、地域の優れた点を学ぶ授業を行っていく。デュアルシステムを入れ、その地域の技術力を学ぶ。
・農業大学校や大学農学部、技術力の高い会社、戸倉温泉のおもてなしなど、地域資源を生かした校外での学びを大事にしたい。そこで学んだことに対して単位認定も行っていきたい。
・校外での連携では、移動のためのスクールバスも必要になってくるのではないか。
・新校になっても稲荷山養護学校の分教室は残してもらいたい。

※ 各校生徒代表の感想
・新しい学校がどのような形になるのかワクワクしている。懇話会に参加して、とてもいい体験ができている。
・設備に関する具体的な話が進んでいることに嬉しく思いる。今後の話し合いが楽しみである。より良い学校作りに向けて、今後も議論に参加し、考えを深めていきたい。
・新校に IT などの新しい技術が導入されることで、より良い学校ができると思う。非常に楽しみである。

その他

【次回】
・日時：令和７年４月または５月（予定）
・会場：千曲市（予定）
・内容：新校での生徒像・学校像

学びのイメージ　策定スケジュール

共通理解

第１回：懇話会の趣旨説明
第２回：総合技術高校
　　３校の学校・学び
第３回：全国の先行事例
第４回：これまでの懇話会

目指す学校像
育てたい生徒像

第５回：学校(学科)間連携
　　生徒像・学校像・ワクワクする学校
第６回：生徒像・学校像とその手立て
第７回：生徒像・学校像（事務局案）
第８回：生徒像・学校像（確定）

新しい学校の中身

第７回：情報教育
第８回：情報教育、地域連携
第９回：学科の魅力づくり
　　学びの融合　など

新しい学校の形

第10回～第12回：
・設置課程、学科
・活用する校地、校舎
・想定する募集学級数
・卒業後の進路保障　など

学びのイメージ
完成

第７回長野千曲総合技術新校懇話会資料

上伊那総合技術新校（仮称）再編実施基本計画（案）

１　再編統合対象校

辰野高等学校の商業科、箕輪進修高等学校の工業科、上伊那農業高等学校、
駒ケ根工業高等学校

２　募集開始（開校）年度

令和 17 年度以降

学校規模の縮小化が避けられない状況の中、上伊那地区４校にわたる統合となり、総合技術高校として、施設の整備期間等を考慮し、新校の募集開始年度を令和 17 年度以降とする。

３　活用する校地・校舎

上伊那農業高等学校

新校で構想する学びの実現、学校規模、生徒の諸活動を支える施設・設備と校地の広さを考慮し、新校は、上伊那農業高等学校の校地・校舎を活用する。

４　設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程　農業科・工業科・商業科　３学科あわせて５～６学級程度

農業科、工業科、商業科を設置する総合技術高校として、専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた３科の連携した学びが実現できる教育課程を編成する。

上伊那地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には５～６学級程度が想定される。

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

５　統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

「専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた３科の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる高校」を構想する。

６　統合新校の施設整備について

・使用可能な既存施設は有効に活用することを前提とし、再編統合による生徒数の増加や学科の改編等に対応するために必要な施設整備を行う。施設整備にあたっては、新たな学びや現在の生活スタイルに対応するよう配慮する。

・施設整備に係る概ねの期間 10 年程度を想定

上伊那総合技術新校の学校像のイメージ

自己を磨き、みらいをデザインできる力を育てる高校

育てる生徒像

○専門性・社会性や人間力を育み、地域や自分自身のみらいをデザインできるひと
○上伊那で学び、地域・社会を元気にできるひと
○多様な人々との協働を通して、主体的に行動し、学び続けることができるひと
○幅広い視野や、多様な価値観を持ち、学びを活かして、社会に貢献できるひと

目指す学校像

○専門性を磨くとともに、学科の枠を超えた農工商の連携により、新たな価値観を創出し、地域・社会に貢献できる学校
○上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して、生徒が成長できる学校
○多様な生徒が「生き生き」と生活し、個人や社会の「ウェルビーイング＊」を実現できる学校
○生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会のみらいを創造できる学校

＊身体的・精神的・社会的によい状態にあること

多様で探究的な学び

総合技術高校で拓く上伊那のみらい

農　業
動植物の命や自然環境を通して、食料生産や環境保全を学ぶ
（野菜･果樹･植物･動物･フード アグリ･里山･グローカル）

×

商　業
経済活動の実践を通して、ビジネスに必要な知識・技術を学ぶ
（マーケティング・流通・会計・ビジネス情報・関係法規）

×

工　業
ものづくりを通して、地域・社会を支える産業技術を学ぶ
（機械・電気・情報技術）

○専門性を高め、多様な選択科目から、**個々に応じた探究的な学びができるしくみ**
○６次産業について**高校生が考える農工商の融合した学び**

学びの連携プラットフォーム

ミックスホームルーム
3科融合したクラス編成

新たな単位認定
学校外学習の単位認定
学校間連携による単位認定 等

３科協働を支える施設
プレゼンルーム　クリエイティブラボ（協働実習室）
ウェルビーイングルーム（魅力発信研究室）等

○学科の枠を超えた学び
・学科の枠を超えた学びの実践により「自然・環境」「産業・経済」「人間・生活」等、調和のとれた、持続可能な社会の実現に貢献できる資質・能力を育成する
・学科の枠を超えた学びを通して人間性を高め、自らみらいをデザインできる力を育てる
・共通した学びによりDX時代に対応できる力を育てる
（AI・データサイエンス・プログラミング・メタバース・ドローン等）

○みらいの産業界のつくり手の育成
・様々な課題を理解し、イノベーション創出に貢献できる知識と行動力、汎用的・多面的な職業能力を育む
・地域連携を通じて上伊那地域全域を舞台に、探究し、発信できる力を育む
・上伊那総合技術新校での学びを最大限に活かした資格・検定へ挑戦する力を育む

学びを支えるデュアルプラットフォーム

地域連携協働室を創設し、地域連携コーディネーターを配置

上伊那地域共学共創プラットフォーム

地域活性化や課題解決、イノベーションの創出に貢献できる生徒を**上伊那地域全域で育てるシステム**

市町村　上伊那広域連合　信州大学　南信工科短期大学校
青年海外協力隊(JICA駒ヶ根)　各種学校（幼保小中高大特支）　産業界

※伊那養護学校中の原分教室については引き続きキャンパス内に教室を設ける

事務局　原々案

第５・６回懇話会のグループワークより、AI を使用し、キーワードを５つに絞った。
これらのキーワードは、地域への愛着と誇り、主体的な取り組み、問題解決能力、コミュニケーション力、そしてデジタル技術の習得を強調している。

・地域貢献	・主体性	・課題解決力	・コミュニケーション能力	・デジタル技術

◎学びのイメージ
・農業×商業×家庭科　深める・つながる学びで、未来をデザイン！
・作る・伝える・くらすを学ぶ！農業×商業×家庭科
・農業×商業×家庭科　“つくる力”が“生きる力”になる学校
・農業×商業×家庭科の学びを通して、伝統と創造が融合する総合技術高校
・農業×商業×家庭科の学びを通して、未来を拓く総合技術高校

◎目指す生徒像
〇主体性・課題解決力等
・柔軟な発想で新しい価値を創造し、挑戦を通じて成長し続ける自主自立した生徒。
・自ら考え、柔軟な発想で新たな価値を生み出し、挑戦をいとわず、より高い目標に向かって学び続ける生徒。
〇コミュニケーション能力・協働する力等
・自他を尊び、多様な価値観を受け入れ、個人や社会のウェルビーイングを追求する生徒
〇地域貢献・郷土愛・グローカル等
・地域と産業に愛着と誇りをもち、グローカルな視点をもってよりよい社会を築こうとする生徒

◎目指す学校像
〇主体性・課題解決力等
・基礎学力と専門性を土台に自ら問いを立てて追究する学校。
・自分の興味や問いを大切にしながら、農業・商業・家庭科の専門を活かして探究していける学校。
〇コミュニケーション能力・協働する力等
・開かれた柔軟なカリキュラムを編成し、学科、学年の枠を越え、さらに社会や企業と協働できる学校。
・協働した学びを通して、挑戦と失敗を肯定する文化を根付かせ、創造性と柔軟性を育くむ学校。
〇地域貢献・郷土愛・グローカル等
・地域の伝統文化や産業に触れ、自ら貢献意識や郷土愛を育む学校
・社会や世界に目を向け、地域の活性化につながる「リアルな経験」を重視する学校

◎第５・６回懇話会のグループワークより

以下の内容からキーワードを５つに絞った。

・長野千曲地域に愛着と誇りを持ち、住み、働き、地域を、また次世代へバトンタッチしてくれる生徒

・将来、新たな価値観を生み出す人材育成

・地元貢献はもとより、世界（発展途上国など）に将来貢献できる人材となる生徒

・失敗してもあきらめない生徒

・起業家精神を備えた生徒

・目標、目的意識を持って、自主的に取り組む生徒

・選択力（多角的・多面的に自分の基準を作る力）のある生徒

・自主自立している生徒

・チャレンジ精神のある生徒

・主体的に取り組める生徒

・目的意識を持てる生徒

・デジタル技術を身につけた生徒

・横断的、主体的に学ぶことのできる生徒

・課題解決力のある生徒

・自己課題に向け、根気良く追及する力を身につけた生徒

・主体的な生徒

・表現力、判断力のある生徒

・「なぜ？」「どうして？」の問いを持つ生徒

・主体的に活動できる生徒

・正解のない時代の中で、自分自身に対して問いができ、探究できる生徒

・自ら選択

・私が創る地域の未来・日本の未来

・持続可能な社会（環境）を思考できる生徒

・基本的なデジタルスキルを身につけ、それを発展させていこうとする生徒

・国際的な視野を持った生徒（海外への関心を持った生徒）

・非認知能力を備えた生徒

・農業、商業、ライフデザイン及び工業で、ひとつの分野に特化した専門性を持つ生徒

・地域を担う人材

・一つの分野に特化した専門性を持った生徒

・主体的で、専門的な知識を持った生徒

・学校教育法第 30 条２項を根拠にした生徒

・これからの令和の時代を生き抜くための協働的・探究的なチカラをもつ生徒

・地域の資源や産業に誇りと共に発展できる力を持つ生徒

・地域の資源や産業に愛着と誇りを持ち、地域とともに発展しようとする生徒
・長野千曲地域の良さを理解し、支え、生かしていこうとする生徒
・自主自立できる生徒
・チャレンジできる生徒
・社会の課題に対して、問題解決に向けて学び、研究し、提言し、実行できる生徒
・自ら考え、自ら行動し、主体性を持って、希望を持って生きていくことができる生徒
・人とのコミュニケーションができる生徒
・情報化時代こその価値観とコミュニケーション力を身につけた生徒
・適応能力が備わった責任感が強く、人間性豊かな生徒
・発想豊かな生徒
・困難に立ち向かう力を身につけた生徒
・自らの適性や興味・関心を見つけられる生徒
・農だけ、商だけ、家だけの狭い視野でなく、広く柔軟に思考できる生徒
・主体性を持った生徒
・自分の考えを表現できる生徒
・スマホのみからだけの情報でなく、世の中の動きを捉えられる生徒。
・いろいろな情報を自分で見極められる生徒
・自分の考えをしっかりと持って発言することができ、周囲の者から発言した内容に同調されて、自分に自信を持って取り組むことができる生徒
・社会で求められるコミュニケーション能力を持つ生徒
・課題解決能力、コミュニケーション能力を備えた生徒
・就職を見据えた資格、技術を持った生徒
・農業、商業、家庭科の各専門的な知識を持ち、自分で考えられる生徒
・実際に体験して、体感してみることが、主体的にできる生徒
・新しい考え方で（発想で）、柔軟に物事を考えられる生徒
・社会で求められるグローバル人材となる生徒
・即戦力になるような学びを持った生徒
・コミュニケーション能力を備えた生徒
・一人ひとりが主役になって羽ばたこう
・もっと自分らしく輝こう
・社会の中で、自分もみんなも幸せになっていこうとする生徒
・何歳になっても、志を高く持って自分から学び続ける生徒
・やりたいことがいっぱいある生徒
・主体性、多様性、チャレンジ、コミュニケーション能力を備えた生徒
・近年注目を集めている生涯役に立つであろう力、非認知能力を備えた生徒

・学び続けられる力を持った生徒
・幸せになれる生徒
・学んだ後には、こんな君がいる
・発想が豊かな生徒（多様性に対応できる、多様な価値観の中にいる）
・中学生の時に自分の将来がはっきりしていない人でも総合技術新校での体験や資格取得を知って、興味を持った職に就くためにどうすれば良いか、どんな資格を取れば良いか逆算できる生徒
・農業・商業・家庭科の専門的な知識や技術を身につけた生徒
・専門学習をとおして、多面的なチカラを身につけた生徒
・身につけた専門的な知識や技能を生かして各業界で活躍する人材
・地域と関わる専門学習をとおして、自らの生き方を見つけられる生徒
・専門性と多面的な力を身につけた生徒
・地域を支える人材育成
・グローカル：グルーバルな視点を持ち、この地域をしっかりと支えていける人材育成
・様々な専門分野にふれ、意欲、探究心のある生徒
・幅広く専門知識、技術を身につけた生徒
・地域から世界まで考えられる生徒
・自分の基軸を新たに発見できる生徒
・就職先で使える技術を身につけた生徒
・就職先、進学先で役に立つ技術を身につけた生徒
・技術や肯定感が高い生徒
・持続可能な地域社会を創る一員となる生徒
・様々な立場で物事を見る力や新たなことに恐れずチャレンジする力、企画力や実践力を身につけた生徒
・コミュニケーション能力を身につけた生徒
・主体的に学びに向かう力を身につけた生徒
・様々な課題に対応できる力を身につけた生徒
・限界を定めない、困難を乗り越えられる生徒

DX に係わる学科・学び　～第５回・６回懇話会グループワークで出された意見～

［デジタル］でフィルタ

●生徒像

・デジタル技術を身につけた生徒

・デジタル・情報科をつくるならトップ校になるつもりで

・基本的なデジタルスキルを身につけ、それを発展させていこうとする生徒

・基礎的なデジタルスキルを身につけられるカリキュラムや設備の設置

●学校像

・デジタル技術の取得と活用（可能な限り、最新技術を導入）ができる学校

・デジタル関係教育の県内トップ（先進、最先端）高校

・デジタル技術が必要なら、情報科等の設置

・デジタル技術を学ぶ学校

・デジタルで学科間連携

・デジタル技術を使った科をまたいだ交流

［DX、IT、AI、先端技術］でフィルタ

●生徒像

・農業、商業、家庭＋DX(新)をとおして、地域、企業、他の高等教育機関とより共創、連携したカリキュラム

・AI や偽情報等、社会が複雑化すればするほど、価値観、歓談力などの倫理面やコミュニケーションの学び

・ワンキャンパスを基本とし、IT を中心とした各科を経験させるカリキュラム

●学校像

・IT の導入

・日本でのＩＴ技術の遅れ

・先端技術の習得（IT）のできる学校

・ＩＴ系の先端技術が学べる学校

・デザイン、ものづくり、ビジネス、ＩＴで統合的で実践的な学びができる学校

資　料

長野千曲総合技術新校　校地検討部会設置要綱（案）

高校再編推進室

１　目的

県教育委員会が長野千曲総合技術新校の校地を決定するにあたり、長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会（以下、「懇話会」という。）における意見交換を円滑に進めるため、校地に特化して検討を行う専門部会（校地検討部会）を設置する。

２　運営

（１）校地検討部会には部会長を置く。
（２）校地検討部会が開催する会議（校地検討会議）は原則として非公開とする。
（３）校地検討会議の開催は懇話会と同一日を基本とする。
（４）校地検討会議では、校地・校舎に係る環境、通学環境、学習活動を支える教育環境等の観点から新校の校地について検討する。
（５）校地検討会議の内容については、随時懇話会で報告する。

３　構成員

校地検討部会の構成員は、懇話会座長、自治体関係者（副市長、教育長等）、地域や産業界の代表、同窓会（各校１名）、各校校長等とし、必要に応じて県教育委員会が依頼する。また、オブザーバーとして地域振興局長が参加する。